

調査速報

道西日本海(檜山海域)スケトウダラ資源調査結果

2014年 11月 6日

北海道立総合研究機構 函館水産試験場 (0138-83-2893)

○2014年10月16～24日に調査船金星丸を用いてスケトウダラ資源調査を実施したので、結果をお知らせします。調査速報は下記の函館水試ホームページからもご覧になれます。

<http://www.fishexp.hro.or.jp/cont/hakodate/>

- スケトウダラ魚群は、例年と同様に沖合域に分布が多く、スケトウダラ延縄漁場となる沿岸域では少なかった。
- スケトウダラの推定分布量(重量)は、昨年をやや下回った。
- 漁獲対象となるスケトウダラの大きさは、昨年とほぼ同じかやや大きかった。
- スケトウダラ延縄漁場周辺の水温は、水深300m以深はほぼ平年並であったが、300m以浅は平年を1～6℃下回っていた。

● スケトウダラ魚群の分布

・ 水平分布(図1)

スケトウダラ魚群は、例年と同様に奥尻島の東側の大成沖や奥尻島南側の奥尻海脚、松前小島周辺などの沖合域に分布が多く、スケトウダラ延縄漁場となる沿岸域では少なかった。

・ 鉛直分布(図3)

スケトウダラの分布は、主に水深200～400mに見られた。

● スケトウダラ成魚の推定分布量(図2)

奥尻島以南海域における計量魚探反応量から推定したスケトウダラ成魚の分布量を図2に示す。2014年の推定分布量は昨年(2013年)をやや下回り、2008年以降は低位で推移している。

● トロールで漁獲したスケトウダラの大きさ(図4)

奥尻島の南側では、概ね尾叉長41～49cmのスケトウダラが漁獲された。一方、奥尻島の東側では尾叉長25～26cmを中心とした未成魚が多く漁獲され、例年成魚主体に分布している檜山海域では異例なことであった。

すけとうだら延縄漁の漁獲対象になると考えられる35cm以上の尾叉長組成を昨年と比較すると、ほぼ同じかやや大きかった。

● 水温環境(図5)

スケトウダラ延縄漁場周辺(乙部沖、江差沖、上ノ国南沖)の水温は、水深300m以深はほぼ平年並であったが、300m以浅は平年を1～6℃下回っていた。

スケトウダラの分布が多かった水深200～400mの水温は、平年並もしくは平年をやや下回っていた。

● 漁況の見通し

計量魚探調査やトロール調査結果から、当海域で漁獲対象となるスケトウダラ産卵魚の分布量は昨年をやや下回り、魚体は昨年並もしくはやや大きくなると考えられる。しかし、近年の漁況は魚群の沈み込みによる漁獲不振等の影響を強く受けるため、分布量から漁獲量の見通しを判断することは困難である。

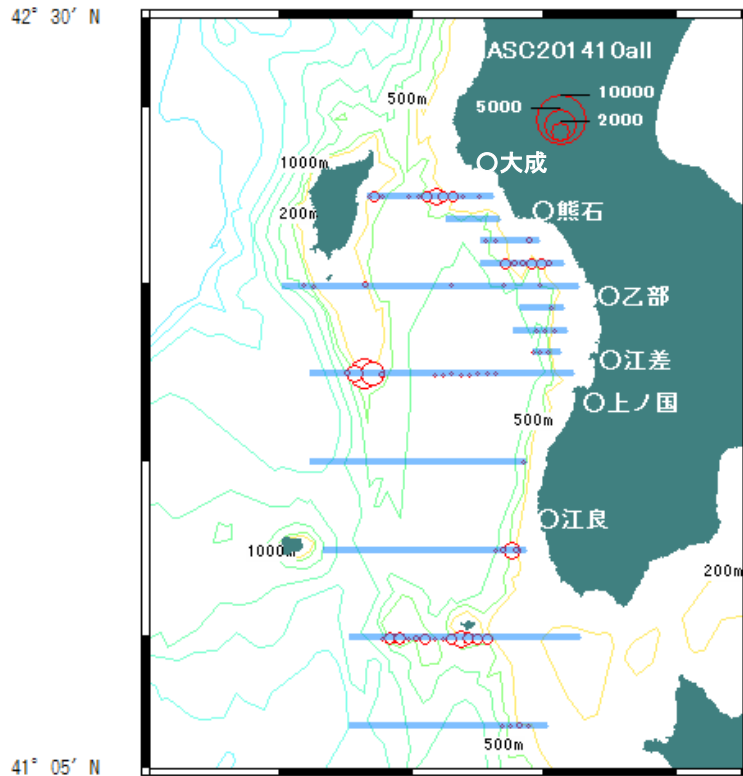


図1 計量魚探調査による魚群反応量 (NASC (m²/nmi²)) の水平分布 (2014年10月)
 ※魚群反応量 (NASC) : 1 マイル平方面積あたりの魚探反応の強さを表す。
 ○の大きさが魚群反応量の強さを示す。
 青線が計量魚探の調査ラインを示す。
 ○ : スケトウダラ延縄漁場域

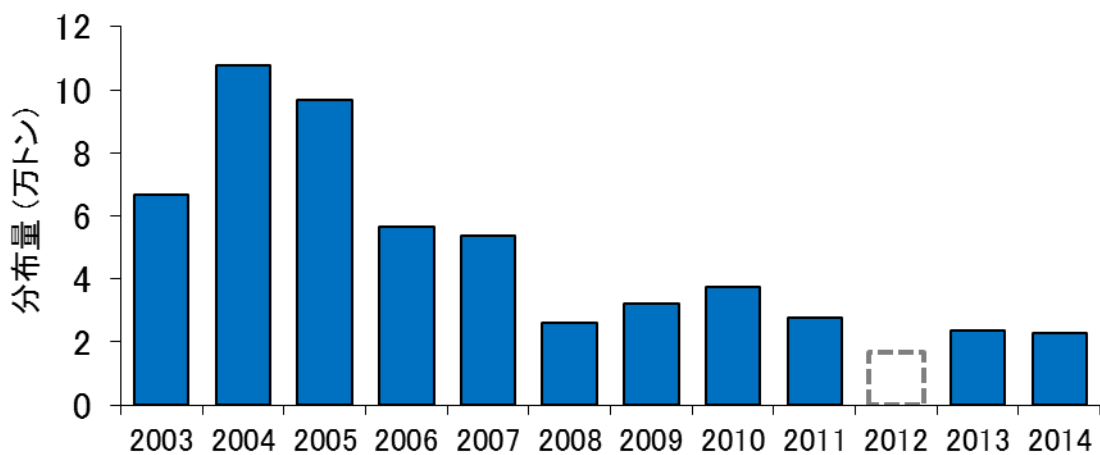


図2 奥尻島以南海域におけるスケトウダラ成魚の推定分布量
 ※2012年は荒天による欠測等により過小評価されているため参考値

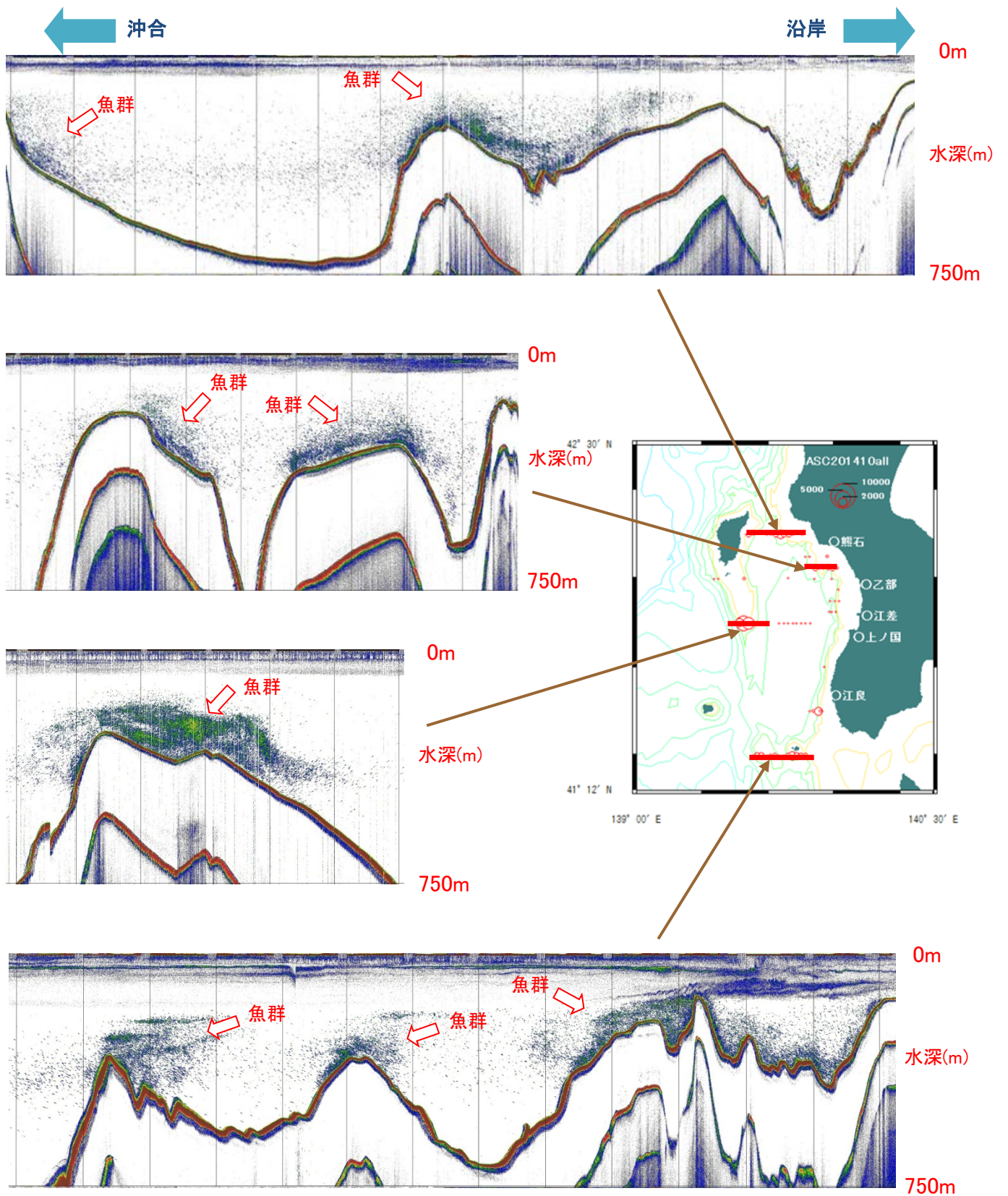


図3 各調査ラインにおける魚群の鉛直分布(夜間に調査を実施)

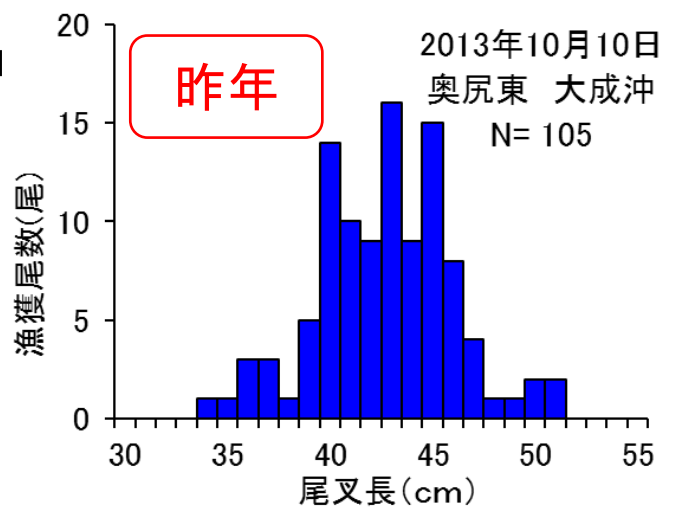
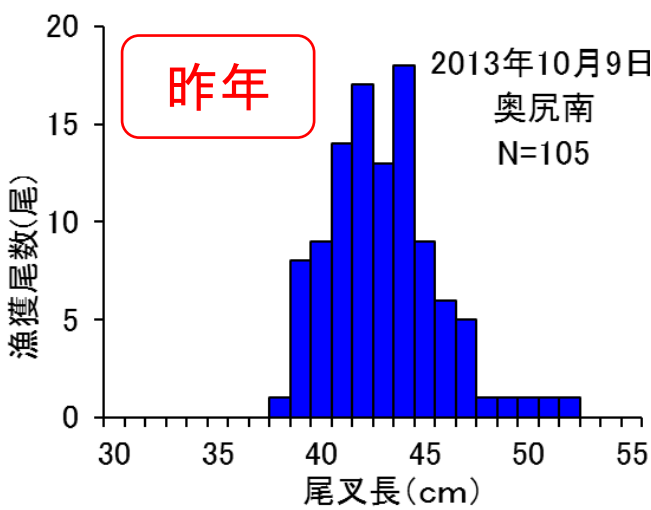
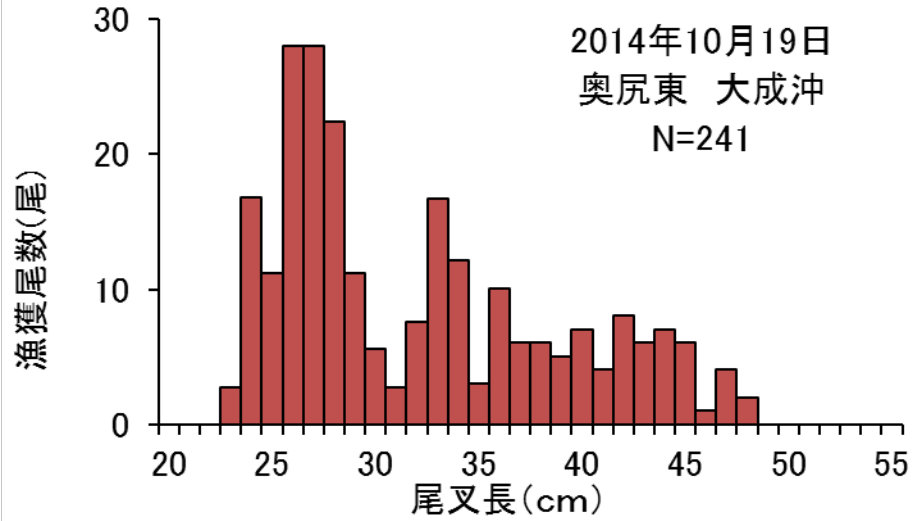
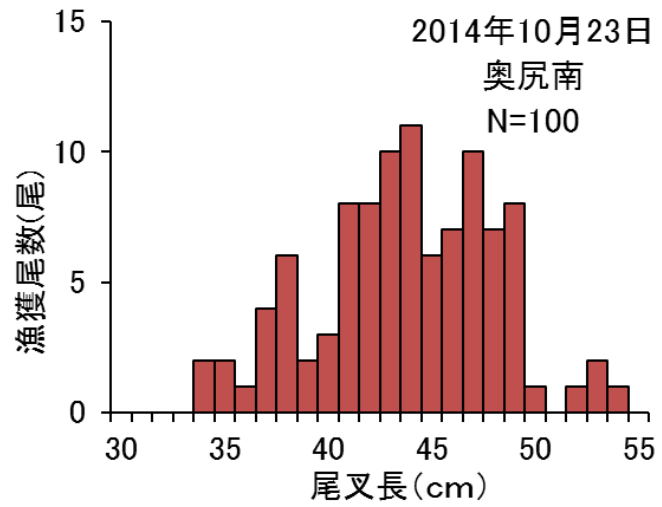
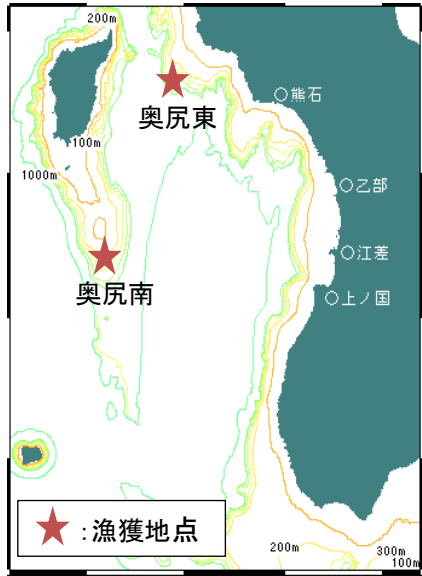


図4 着底トロールで漁獲したスケトウダラの大きさと漁獲地点
(上段, 中段: 2014年 下段: 2013年)
※2014年奥尻東の尾叉長範囲(横軸)が他のグラフと異なるのでご注意ください

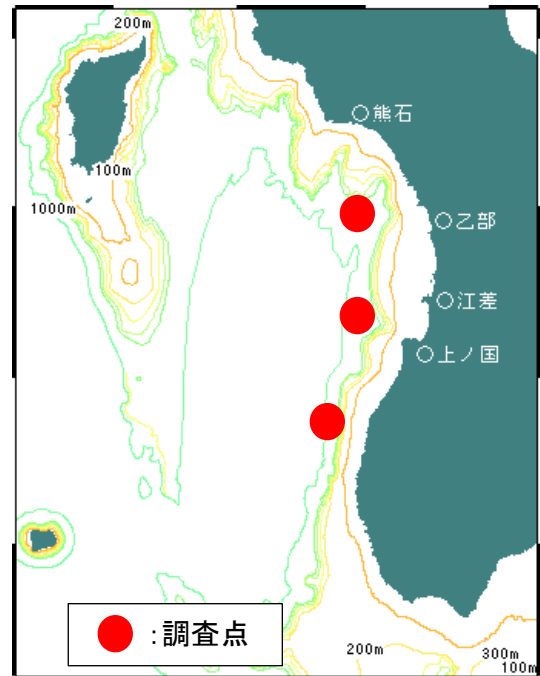
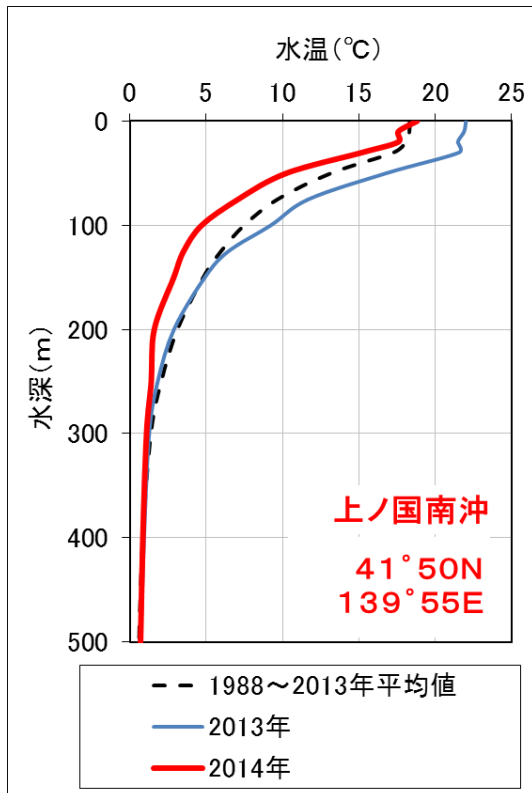
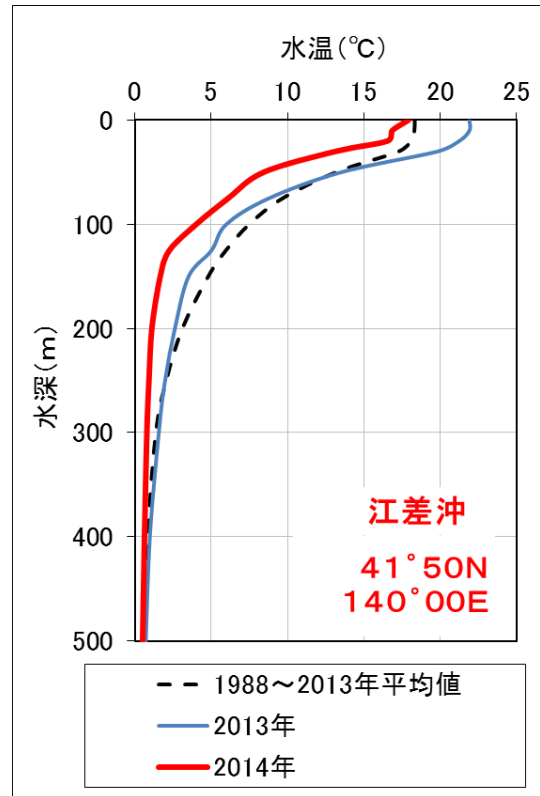
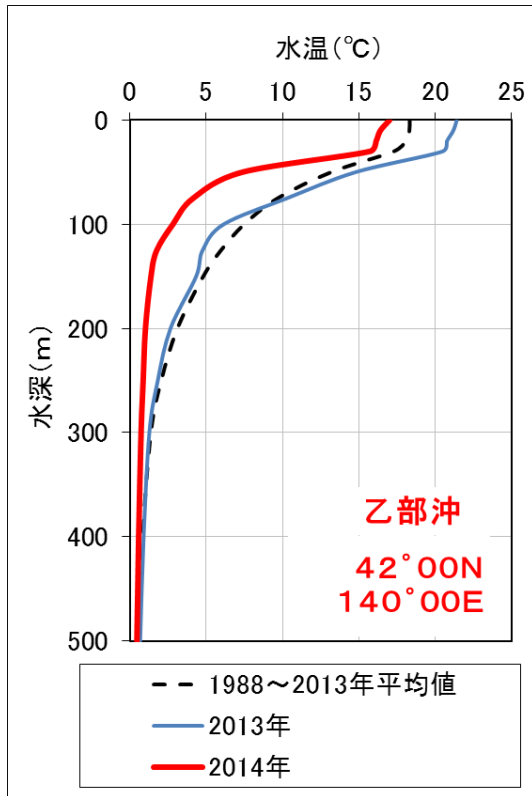


図5 乙部沖(左上), 江差沖(右上), 上ノ国南沖(左下)の鉛直水温分布と調査点位置